

会報表紙写真「緑映」 (平成22年7月号掲載)を表彰!!



5月の連休、息子家族のキャンプに渋渋ついて行った。しかし、やんばるの山中に入る頃、「ああ、やっぱりヤンバルはいいなあ！」と大きく息を吸い込んでいた。

10年前は、やんばるの森や川に魅せられて毎週のようにカメラ片手に北部の山中を友人と二人でさまよっていた。

今回の場所は国頭村森林公園キャンプ場の辺土名湖である。以前は出会えなかった素晴らしいスポットである。やんばるの美しい木々の緑や清涼な空気感をはたして切り撮れたであろうか。

垣花整形外科・歯科医院
垣花 隆夫

講評

写真家 新報カルチャーセンター講師 新嘉喜 祐司

山原には、まだまだ美しい自然が残っています。水面に映っている木立や緑がとても印象的です。

上・下のバランスのとれた吸い込まれる様な写真で、今後、写真を撮る時は三分割にして写されるとよいと思います。

コメント

広報副担当理事 照屋 勉

平成22年度のBest Picture賞が決定いたしました。(ご投稿頂いた先生方の写真に対する“熱い思い”に、順位をつけることにはいささか申し訳ないという気持ちもあるのですが…)まず、厳選された12枚の写真を、写真家の新嘉喜祐司先生に、さらに4枚の写真に絞り込んで頂き、平成22年12月2日の広報委員会にて採決いたしました。そして、採決の結果、平成22年度のBest Picture賞は、7月号掲載の「緑映」(by 垣花整形外科・

歯科医院の垣花隆夫先生)に決定いたしました。(2月号掲載：安里良盛先生の「夢」、4月号掲載：高良聰子先生の「芝桜」、12月号掲載：新里越郎先生の「梅檀造形」も同様に高い評価を受けておりました!)。垣花先生には、崩されつつある山原の原風景を見事に“切り撮って”頂きました。先生の「古い壺」に対する造詣の深さは認識しておりましたが、「写真」に関しても、“上下のバランスのとれた吸いこまれる様な写真”と評される程のセミプロレベルの実力…、改めて脱帽です。今後とも、美しい写真のご投稿の件、宜しくお願い申し上げます。

【P.S.】

- ①広報委員会において、写真家；新嘉喜祐司先生の講評を聞かせて頂く際、プロの方の視線・アングル・感性に、広報委員一同“トリビアの泉”状態で「へ～！へ～！へ～！」と、毎回頷いております。
- ②会報表紙写真に関しまして、より多くの会員の先生方に、ご投稿・ご推薦頂きますよう心から切に切にお願い申し上げます。